

【国語】 < 中学校 第2学年 >

1 結果のポイント

「聞く能力」については、いずれの問題も正答率が80%を上回っており、聞く能力が十分身に付いている。特に、事実と意見の関係や話し合いの方向性を聞き分ける問題は正答率が90%を超えている。

「書く能力」については、いずれの問題も正答率が60%前後であり、資料や文章から分かることを適切にまとめ、主述の整った文で書く力などは十分身に付いているとはいえない。

「読む能力」については、登場人物の心情や考え方を読む力については正答率が80%前後であり、力が付いている。他方、展開をとらえながら文章を読む力をみる問題の正答率は60%を下回っており、力が十分身に付いているとはいえない。

「言語についての知識・理解・技能」については、学習した漢字を読む力、敬語や慣用的な表現やことわざを正しく使う力をみる問題の多くの正答率が80%を上回り、日常よく使われる言葉に関する意味や用法が身に付いている。他方、よく似た語句や漢字を書く力をみる一部の問題の正答率が60%を下回り、まぎらわしい語句や文章で使われる語句の意味や用法を理解し正しく使う力などは、十分身に付いているとはいえない。

2 結果の分析

(1) 論理的な展開や構成を考えながら話の内容を聞く力をみる問題の例(「聞く能力」)

<問題> ㊦ の二

松本さんのスピーチのよさについて、最も適切なものを、ア～エから選び、符号で書きなさい。

ア 問いかけとその答えを何度も繰り返す形式で話を進めることで、聞き手が興味をもちやすいように述べている。

イ ニュースの紹介だけを話し、自分の感じたことや、意見は、まったく述べていない。

ウ 調査の結果を具体的な数値で紹介し、さらに、調査の結果についての意見や感想を述べている。

エ 自分の主張に対する反論を想定し、反論に対する反論を述べることでより説得力ある述べ方をしている。

<結果> 正答率 87.8% (正答...ウ)

<分析>

高校生の読書調査について、日本とアメリカを比較した「アメリカでは四人に一人」などの表現を聞き取り、具体的な数値で結果を紹介していることが理解できている。そして、「～というのです。」「～読んでいることになります。」などの文末の表現や「はるかに多く」「なんと週三時間以上」などの強調表現から、話し手の感想や意見が含まれた述べ方であること聞き取っている。こうした述べ方が、説得力ある述べ方であることを理解できていると考えられる。

(2) 比喩表現に着目しながら登場人物の心情を読む力をみる問題の例(「読む能力」)

<問題> ㊦ の四

四 文章中に、? 浦さんがわたしに笑わない^め眼で言いました。 とあります。このときの「浦さん」の気持ちとして最も適切なものを、ア～エから選び、符号で書きなさい。

ア 「わたし」があまりに痛そうなので、どんなに元気づけても無駄だとあきらめた。

イ アカエイがいるのに、調子に乗って海に入った「わたし」のことを怒っている。

ウ 毒をもったアカエイに刺されるとは大変なことになったと、心の中で心配している。

エ 一時間も鉄熊手を振って疲れていたから、「わたし」を背負うのにうんざりしている。

<結果> 正答率 79.5% (正答...ウ)

<分析>

登場人物の見方や考え方をとらえる問題とともに、正答率は80%程度である。「笑わない眼」

が比喩表現であること、そして「浦さん」が突然の事態に直面し緊張している様子を表現していることがとらえられている。その様子から「浦さん」が「わたし」の容態を心配したり、無警戒であった自分を反省したりしたものであることを理解することができていると考えられる。

(3) 資料から分かることを、主述が整った文で書く力をみる問題の例(「書く能力」)

<問題> 四の一

一 このグラフから分かることを、例にならって、グラフに示されている数値を使いながら、主語と述語を適切に対応させて書きなさい。

(例) 家庭学習が毎日必要であると思っている人の割合は、全体の七〇・五パーセントです。

<結果> 正答率 57.1%

<分析>

解答欄に記述した生徒は90%程度であり、資料から分かることを表現しようとする意欲はみられる。しかし、「漢字は日本語の表記に必要な文字である」「そう考える人がいる」「その割合は72.8%である」というグラフから分かることを整理する力が十分身につけていないと考えられる。また、重文になる場合の主述の対応も正確に書くことができなかつたと考えられる。四の二の「一で書いたことについて自身の感想や考えを書く」問いについても同様の傾向がみられる。

3 分析を踏まえた指導の改善

(1) 指導計画の工夫改善

- ・年間指導計画に、第1学年の「読むこと」の指導事項「イ 文章の展開に即して内容をとらえ、目的や必要に応じて要約すること。」が身に付いているかを確かめる単元を設定したり、第2学年及び第3学年における指導事項である「イ 書き手の論理の展開の仕方を的確にとらえ、内容の理解や自分の表現に役立てること。」などを重点とした単元の設定が必要である。
- ・「書くこと」の指導事項「イ 自分の立場および伝えたい事実や事柄を明確にすること。」を目標とした単元に重点を置くとともに、「書くこと」の単元の中で継続的に指導していくよう配慮する必要がある。

(2) 指導方法の工夫改善

- ・「話すこと・聞くこと」においては、事実と意見とを的確に組み立てること、さらには全体の論理的な構成や展開を明確にして話すことや、そうした構成や展開が明確になっているかを確かめながら聞く指導を大切にしていける。また、指導の際、構成や展開が明確になるようスピーチメモや構成表を活用するなどの工夫をすることも大切である。
- ・「書くこと」においては、立場を明確にし、事実や事柄を整理し明確にするために、メモやカード等を活用する。また、構成表など活用し、生徒が意見と事実という小さなまとまりの構成、さらには文全体という大きなまとまりの構成に目を向けていくことができるようにする。このような点を明確に伝えるモデルを提示していくことも大切である。
- ・「読むこと」においては、文学的文章を扱うときにも文章の構成や展開を把握する授業を大切にしていける。特に、登場人物の心情だけではなく、場面や描写された情景の変化などについてとらえる指導を大切にす。また、説明的文章についても内容と合わせながら、構成や展開を把握するための授業を工夫し、そこで培った力を「話すこと・聞くこと」や「書くこと」に生かせる指導を大切にす。

(3) 学習環境の工夫、学習集団の育成等

- ・国語科の授業で身に付けさせた力を、発言のルールやノートの書きまとめ方等において発揮させ、定着するよう配慮する。
- ・辞書類の使用や、学習した漢字を文章中で使うことなどを習慣化させるとともに、教室の掲示物の文字等にも配慮できる学習集団を育成する。
- ・図書館や調べ学習室の環境整備として、調べ学習や発展学習の手順や要領、まとめ方について掲示や資料を整える。